



ROTARY INTERNATIONAL

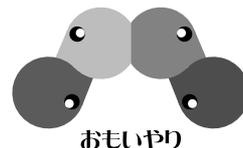
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO.2650



CHOHEI HASHIMOTO

ABS BUILDING
ANEKOJI KAWARAMACHI HIGASHI NAKAGYOKU
KYOTO, JAPAN



No. 1 July 1, 2007

ガバナー月信 第1信 (平成19年7月1日)

第2650地区 ロータリークラブ

国際ロータリー 第2650地区ガバナー

会長・幹事・みなさまへ

橋本長平

●就任にあたり●



会長
ウィルフリッドJ. ウィルキンソン



ガバナー
橋本長平

会長、幹事、そして会員の皆様方、ロータリーの新年度を迎え、皆様と共にロータリアンとして改めて喜び合いたいと思います。日頃からロータリーには、大変なご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。ロータリーの新年度を迎えガバナーとしての所信の一端をご披露申し上げます。

R.I. 会長 今年度の R.I. テーマ

ウィルキンソン R.I. 会長は今年度の R.I. テーマとして 'Rotary Shares' 'ロータリーは分かちあいの心' を掲げられました。このテーマは、久しく語られてこなかったロータリーの四大奉仕に基礎をおくものであることを鑑みますと誠に感動的なものであります。R.I. 会長が、テーマ講演の中で心を大変強調され、「おなかを空かせた人に食事を持っていけばおなかを満たすことができますが、さらに食卓を共にする

ならその人の心をも満たすことができます。」という話はその最たるものであります。そして「思いやる気持ちがロータリーに分かちあいの心をもたらし、ニーズを知ればこそロータリーは分かちあい、「超我の奉仕」を實踐すればこそ、ロータリーに分かちあいの心が生まれるのです。」「ロータリーにおける分かち合いとは、自分自身に不要となったものを施すことではありません。分かち合いとは、人のために我を忘れて自らを捧げることです。」と続けられました。R.I. 会長の今年度のテーマは、我々ロータリアンが、将来に向かって歩む姿を示した実践倫理規範とも評価することができます。我々は、このテーマに従って歩むことで、自然とロータリアンとしての自覚と責任を覚えるようになることでしょう。ロータリアンの皆様方におかれましては、是非とも、このテーマの有する深い意義を認識していただき、このテーマに沿った実践活動を進めていただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

地区のテーマ

さて、今年度の地区のテーマは 'おもいやり' と決定致しました。R.I. のテーマとも相通ずるところがあります。1905年にシカゴで始まったロータリーは、ポール・ハリスを始めとするたった4人の会合から始まり、今や、全世界

で120万人を優に越すロータリアンを擁するものにまで成長しました。最初に集まった4人のロータリアンは、お互いに心を求めて、会合を開いたのであります。心といいましても、それは、他人に対する思いやりの心であったのであります。だからこそ、ロータリーが短期間に大きく成長し、自然と奉仕の世界に足を踏み入れることが出来たのであります。奉仕の心というのは、実はこの思いやりの心であります。他の団体（クラブ）にはない職業奉仕という考え方をロータリーは持っています。職業は収入を得る機会であり、奉仕は世の為人の為に尽くすことではありますが、これらのことが同次元におかれているからこそ世の為人の為になる職業は、倫理的に高いものが要求される人への思いやりが求められるのです。この職業奉仕の考え方を基礎としている為、ロータリーの他の奉仕分野にも心が求められ、ロータリーが今迄発展してきたのであると思います。ロータリーの鼓吹する奉仕の心、思いやりを全世界に広めることが出来れば、ロータリーの窮極的な使命である世界平和への道が開かれるものと信じます。私が、R.I.2650地区のテーマを「おもいやり」と決定した所以であります。

一年という長丁場を「ロータリーは分かちあいの心」「おもいやり」のテーマのもとに、ロータリークラブの活性化を計り、元気で健やかにお過ごしください。

クラブリーダーシッププラン（CLP）

クラブリーダーシッププランが発表されて数年が経過しました。然しながら、日本の多くの地区では、まだまだ普及率が低い状態にあります。当2650地区では、普及率が90%前後と圧倒的に他地区を引き離しております。大久保年度、平井年度での両ガバナーの指導力が発揮された結果だと評価しております。しかし、当地区での普及率は数字の上では確かに高いのでありますが、中味を検討してみるとCLPを採用したと称しているクラブも種々多様であり、中にはCLPを採用した結果、職業奉仕を担当するメンバーが存在しないクラブも存在しているようです。職業奉仕は、ロータリーの看板と言われておりますが、実際は看板ではなく、ロータリーの本質であります。ロータリーから職業奉仕を取ってしまえば、ロータリーでなくなります。又、一方で、ウィリアム・ボイド R.I. 直前会長は、CLPはクラブ活性化の為にトライアルであり、クラブはCLPを採用するか否かに関わらず、毎年クラブ活性化の方策を検討すべきであると言っておられます。CLPを活用したクラブがCLPを採用したことによってどれだけクラブ活性化に繋がったかということが課題であります。そろそろそういった点について検証すべき段階にきているのかも知れません。クラブはクラブ自身の責任により、その活性化を図らねばなりません。ロータリーにとって大変重要なクラブの自由裁量権が試されています。

本年度のガバナー月信

最後に、ガバナー月信は、本来ガバナーが毎月地区内 R.C. の会長・幹事へ送る便りです。しかし、同時に会員の皆様にも、その趣旨が行きわたるよう慣習的に直接会員にも送られています。

本年度は私が必要と思うことと、R.I. 細則などで義務付けられている事項のみを掲載するにとどめることにし、ホームページ内に「月信プラス欄」を設け、ガバナー月信の補完的役割を担わせることといたしました。

このことは、将来的に要請されている電子化への移行の為に訓練的な性格も含まれています。

どうかこの現状をご賢察のうえ「月信プラス欄」も併せてご利用をください。

平井義久直前ガバナーへ捧げる感謝の辞

平井義久氏は、ビル・ボイド R.I. 直前会長が決定された国際ロータリーのテーマ「LEAD THE WAY 率先しよう」のもとに地区のテーマを「絆—奉仕の感動を分かち合おう—」と決定され、自ら先頭に立って絆を取り結ばれ、これを強める為の行動を率先垂範されてまいりました。平井直前ガバナーが、2650地区内で取り結ばれ、強めてこられた絆は、ロータリアンの枠を超え、地域社会に広まっていったものと思いますので、この絆がこれからのロータリー活動にとって誠に大きな影響力を持つものと大いに期待申し上げているところでございます。

何事も終わりよければ全て良しと言われますが、平井年度の年度末に近いところで開催された地区大会もまた誠に感動深いものであり、奉仕の感動を分かち合う最高の舞台演出であったと存じます。最高の地区大会でございました。

平井直前ガバナーのこれまでの御活躍御奉仕に感謝しつつ、これからも益々飛躍されることを願って感謝の辞を捧げたいと思います。

例年のガバナー月信であれば、直前ガバナーに対する謝辞の枠は一頁大が割かれておりましたが、今年は月信枠が小さいので意を尽くせませんが、それでも私の心の中での謝辞を活字にすれば優に一頁を超えるものであることを付加します。